

施策評価シート(対象:H28年度実施施策)

H29年度評価

施策名	安心できる葬祭の場の提供			総合計画コード	123
部名	市民環境部	主管課名	地域づくり支援課	主管課部課コード	020400
関連部課名	市民環境部(環境推進課、総合窓口課)				

1. 施策概要

めざす目的成果	市民の葬祭が滞りなく行われている。					
施策概要	斎場の適切な運営と維持管理を行う。					
個別計画 関連計画	計画名称		計画期間	H	年度 ~ H	年度
				H	年度 ~ H	年度
				H	年度 ~ H	年度

2. 実施結果

H28年度の 施策の実施内容	<ul style="list-style-type: none"> 指定管理/公益財団法人朝霞市文化・スポーツ振興公社 施設改修/斎場空気調和機設備工事、斎場3階トイレ他壁面改修工事 修繕/和室用座卓高上げ17台 備品購入/和室用椅子購入142脚 					
H28年度の 基本概念(コンセプト)の実施内容	安全・安心なまち	市民の葬祭が滞りなく行うことができるよう、施設の維持・管理及びサービスの提供を実施した。				
	子育てがしやすいまち	施設修繕や改修時には、子育て世帯も安心、快適に利用できる施設となるよう配慮した。				
	つながりのある元気なまち	個人の価値観やライフスタイルを尊重し、家族葬など葬儀形態の変化に対応した運営を				
	自然・環境に恵まれたまち	施設の修繕や改修に当たり、環境性能に優れた機器を導入するなど、自然環境の保全に努めた。				
総コスト (事業費+人件費)	単位:千円 (決算)	H28年度(見込)	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
		70,820	—	—	—	—

指標名 (説明)	単位	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	前期基本計画目標 H32年度
		目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画
		実績(見込)	実績(見込)	実績(見込)	実績(見込)	実績(見込)
① 斎場利用率 (説明) 葬儀及び法事の利用統計	%	68.1	70.1	72.1	74.1	76.1
		67.0	—	—	—	—
② (説明)			—	—	—	—

3. 施策の分析

達成度 (目標の達成状況はどうか)	<input type="radio"/> A 目標・計画を大幅に上回る成果があがっている(5点) <input checked="" type="radio"/> D 目標・計画を下回り、十分な成果があがらなかった(2点) <input type="radio"/> B 目標・計画を十分に上回る成果があがっている(4点) <input type="radio"/> E 目標・計画を大幅に下回り、ほぼ成果があがらなかった(1点) <input type="radio"/> C 目標・計画どおりに成果があがっている(3点)
	(説明) 社会情勢の変化により、家族葬などの葬儀の小規模化や葬儀を行わず直接火葬をするなど、葬儀形態が多様化したことにより利用率が減少しており、目標・計画を下回っている。
必要性 (ニーズは今後どう変化するか)	<input type="radio"/> A ニーズ及び解決すべき課題は大きく増加する方向にある <input type="radio"/> D ニーズ及び解決すべき課題は減少する方向にある <input type="radio"/> B ニーズ及び解決すべき課題は増加する方向にある <input type="radio"/> E ニーズ及び解決すべき課題は大きく減少する方向にある <input checked="" type="radio"/> C ニーズ及び解決すべき課題は現状と変わらない
	(説明) 利用率は減少傾向にあるが、7割前後の安定した利用はあり、また、高齢化の進行により葬祭事業に対するニーズは今後も高い状況が続くと考えられる。しかし、葬儀形態の多様化により家族葬などの小規模な葬儀へのニーズが高まっており、今後式場の貸出方法等を検討する必要がある。
施策を進める上での問題点・課題	(説明) 施設開所から20年近くが経過し、施設・設備の老朽化等により故障のリスクも高まっており、施設を利用者に安全・安心に提供できるように、公共施設等総合管理計画に従い、計画的に修繕を実施していく必要がある。また、葬儀形態の多様化による小規模な葬儀への対応や高齢化に対応する和室の提供など利用者のニーズを見極め、計画的に取り組んでいく必要がある。

4. 今後の展開方針[部としての判断]

施策の方向性	[複数選択可] <input type="checkbox"/> 重点化 <input type="checkbox"/> 内容の見直し					
	(説明) 斎場の管理運営については、葬儀形態の多様化への対応を検討するとともに、利用者のニーズが高い和室の椅子導入について、既存座卓をかさ上げ修繕により対応し、より一層の利便性向上を目指す。					
行政と市民の役割分担	<input type="radio"/> I 行政の関与(役割)を拡大 <input checked="" type="radio"/> II 行政・市民の関与(役割)バランスを維持 <input type="radio"/> III 市民の関与(役割)を拡大					
	(説明) 高齢化社会の進行がより一層進行することが予測され斎場のニーズも高い状態が続くと考えられる。行政は常に施設を良好な状態に保つための維持管理を行い、市民に対しては利用しやすい施設管理について意見や要望を伝える役割を期待している。					
施策を構成する事務事業の次年度の方向性	事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	H30に向けた 投入資源の方向性
		H27決算	H28決算見込			
	1 市民葬事業	13,969	13,932	3	3	現状のまま
	2 斎場管理運営事業	42,975	42,361	3	4	現状のまま
	3 環境推進総務事務事業	—	—	2	2	現状のまま
	4 斎場施設改修事業	—	14,527	—	—	H28で休止・廃止・終了
	5					
	計 (単位:千円)	56,944	70,820	—	—	—
	<input type="checkbox"/> 6事業以上の事務事業の位置付けがあるため、別紙に記載					
審議会等の第三者機関の評価(意見)	関連する第三者機関なし					
部長の意見	市民ニーズの把握に努め、利用しやすい施設を目指して施設運営を行っていく。					